

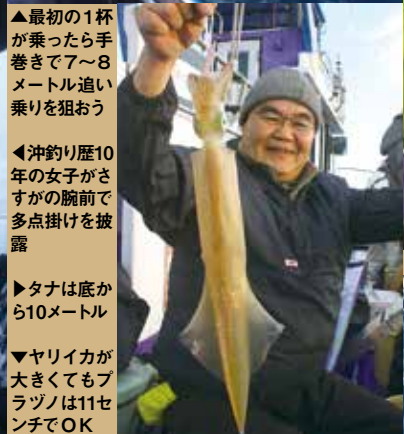


▲最初の1杯が乗ったら手巻きで7~8メートル追い乗りを狙おう

◀沖釣り歴10年の女子がさすがの腕前で多点掛けを披露

▶タナは底から10メートル

▼ヤリイカが大きいてもプラヅは11センチでOK



▲エンペラが大きいオスが目立った



★陽を浴びてあめ色に輝くヤリイカと釣り人の笑顔が鹿島沖の春到来を告げる

茨城県鹿島港出船 良型ぞろいで乗り乗り 鹿島の春ヤリ本格化

撮影●鈴木良和



▲明るくなってからもボツボツ乗った



▲この日の釣果は一人平均10杯ほど



▶ヤリイカ仕掛けはプラヅノ11センチのプランコ仕掛けほか、慣れた人はサバが多い場合に備えて直結仕掛けがあると安心。オモリは150号
◀再投入も投入器を使ってオマツリ防止



◀良型ヤリイカの潮鉄砲は強烈、取り込みで冷めないようにご注意ください
▼平均してサイズがいいから乗りも明確



▲イカの活性が高い早朝はダブル、トリプルも

て数こそびなかつたものの、多点掛けを交えて上げればバラソル級の良型ぞろいと、大ヤリならではの引き味を堪能できた。
船長によれば、3月ごろから徐々に釣り場が浅くなり、最盛期は水深40~90メートルの浅場で入れ乗りになる日もあるとのこと。春ヤリシーズンのお楽しみはこれからだ。
(詳細は52ページ参照)



◎茨城県鹿島港・利喜丸 大川 紘嗣船長

茨城県鹿島のヤリイカが盛況だ。とくに今シーズンは良型主体に釣れており、胴長30~50センチ級をトップで30杯前後、いい日は50杯以上も狙える釣れ具合を見せている。
釣り場は航程1時間ほどの鹿島沖130メートルダチ。2月中旬の取材日は早朝のチャンスタイムにサバの猛攻に悩まされ、巻き上げ中のバラシが頻発し



◎目下の釣り場は鹿島沖の水深130メートル前後とまだ深め